

公表

事業所における自己評価結果

公表日

7年2月18日

事業所名						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		全員が伸び伸びと過ごせるように、部屋の広さを最大限活かした活動を行っている。本年度は床も張り替え、より安全になった。	今後も広さを活かしながら、集団、個別の場面設定を行い多様な活動を継続したい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		支援が特に必要なこどもの利用日は職員を増員するなど工夫がなされ、必要に応じて個別対応を行い、専門職が支援にあたっている。	今後も専門性の高い職員の配置を進め、さらに充実を図りたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		玄関・荷物置き・活動場所・トイレ・手洗いなど各区画に写真や絵・文字などで分かりやすく内容を提示し、活動の流れや時間・送迎順などをホワイトボードに示すなどして構造化を行い、子供の理解を助けている。	玄関に段差があるなど、完璧なバリアフリーではないが、今後配慮の必要な場面に応じて対応する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃・消毒に加えて、感染症の時期には換気等にも気を配っている。活動や遊びに合わせて備品を移動させるなどして空間を有意義に活用している。	今後も、こどもたちによりよい環境づくりを心がける。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		日常的にはパーテーションで区切るなどして個別の空間を作る工夫をしているほか、必要に応じて個別で活動できる部屋を設けている。	今後もこどもの特性やその日の調子に応じて臨機応変な対応を心がける。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日常的に業務を見直す機会を設け、改善に繋がるような提案や意見を広く職員に求めており、業務改善に繋げている。	職員が意見を出しやすい雰囲気づくりを継続し、全職員が改善を意識しながら取り組みたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの評価表を職員間で回覧し、職員一人ひとりの支援の振り返りの材料としている。	貴重な意見を参考にしより良い支援や関係づくりに活かしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日常的に業務を見直す機会を設けているほか、職員会議等でも現状把握や支援方針の確認等がなされており、業務改善に繋げている。	今後も職員が意見を出しやすい雰囲気を作り、全職員が心地よい環境で共通理解しながら業務に集中できるよう心がけていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		計画していたが、実施には至らなかったため、早急に検討していきたいと考えている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		年間計画を策定して事業所内研修を行うほか、外部の研修も利用している。	今後も職員一人一人の学びの機会を推奨し、専門性の向上を後押しする。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、公表している。	定期的な見直しと改善を行っていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		面談等で本人や保護者の意向を確認する機会を設け、支援者の独りよがりにならないよう客観的な計画作成を心掛けている。	今後も背景にある本人家族の願いをくみ取れることを心がけながら計画を作成する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		刻々と変化しているこどもの状態について全職員で情報共有を行った上で、客観的な視点で支援を検討している。	今後も職員間の共通理解を大事にしながら計画を作成していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画更新時には該当児の支援について周知し支援方針や支援方法の確認を行っている。	今後も職員一人ひとりが課題意識を持ち、計画に沿った支援を行っていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		定期的に行うフォーマルなアセスメントに加えて、日常的にあらゆる場面における行動を観察し、職員間で情報共有や分析を行うことでこどもの全体像を把握している。	今後も現在の取り組みを行いながら、こどもの変化に伴ってアセスメントツールの内容を見直し検討していくことも必要と思われる。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインの項目に沿って、適切なねらいや支援内容を取り入れて設定し、一人ひとりに応じてより個別的で詳細な計画を立てている。	今後もガイドラインに沿った支援計画を心がける。

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		原案を基に必ずチームで検討している。	今後も様々な意見を取り入れながらより良い活動の立案を継続する。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		ガイドラインをもとに様々な活動を組み合わせており、四季を感じられるように工夫している。また職員の得意分野を活かして活動を立案している。	今後もガイドラインを参照しながら、職員の特性、得意分野を活かして活動内容を深めていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		一人ひとりの特性や状態に応じた支援計画を立てている。集団・個別の活動を計画的に組み合わせながら、必要に応じて臨機応変に対応している。	こどもの特性を理解し、家庭・学校・併用事業所・相談支援事業所等、関係機関と連携しながら計画を実施していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		活動計画書を作成し、支援前の打ち合わせで全職員が共通理解のもと活動に取り組んでいる。	今後も打ち合わせ等の共通理解を密に行いながら、必要な場面で臨機応変に対応できる体制を維持したい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に振り返りを行い、当日中に課題や成果を共有している。	今後も支援後の振り返りのみならず、必要な場面で、気付いた点・課題点を意見交換し、共有して取り組んでいく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援に対して、対応した職員が記録を入力している。支援方法の原因と結果がわかるような記録を心がけ、次の支援に活かしている。	引き続き支援方法の検証や、共通理解・支援改善につながるような記録の取り方を心がけ、個別支援につなげたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングやケース会議を行い、計画の見直しに繋げている。	定期的なモニタリングのみならず、必要に応じて適宜行っていきたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		4つの基本活動「自立支援と日常生活の充実のための活動」「多様な遊びや体験活動」「地域交流の活動」「こどもが主体的に参画できる活動」を念頭に支援している。	偏った活動にならないよう、今後もガイドラインを念頭に入れながら活動計画を策定し、実施していく。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		こどもが受け身・指示待ちに陥らないよう、自分で考え行動する場面を多く設定している。複数の選択肢の提示や時間をかけて意思表示を待つ等、段階的に自分らしい表現・選択・決定を行う力を育てていけるよう配慮している。	今後も活動の中や日々の支援の際、こどもが自己選択・決定する場を多く設けて、様々な状況下で自分で考え行動する力を育てていく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		主に児発管が参画し、可能な限り心理師も同席している。また連携会議前にはケース会議等でより詳細に情報収集や現状把握、課題と改善策等を検討し、連携会議が有意義なものになるよう意識して参画している。	今後も、こどもの最善の利益を念頭に置きながら連携を行っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		こどもが長時間過ごす学校などの教育機関とは特に密に連携を取っており、緊急時にも迅速に対応が取れている。	今後も良好な信頼関係を構築し、連携の取りやすい体制を目指していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校の担任からその日のこどもの学校の様子を聞き、事業所で本人と一緒に振り返る機会を設けるなど良好に行われている。	今後も、学校と密な情報共有を行いながら、こどもの利益に資する良好な関係を構築していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要時に訪問し、現状・課題の把握や情報共有を行いながら対象児の支援に活かしている。	今後も必要に応じて行き、こどもの成育背景を理解し、支援に役立てていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	前年度まではニーズがなかったため実施されなかったが、今年度は連携を予定している。	これまでも支援内容や情報を提供する用意はあったが、今年度まではニーズがなかった。今後も積極的に発信しながら本人・家族の要望に応じていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		オンライン研修など積極的に行っている。	今後も必要に応じて研修や助言・スーパーバイズ等を検討したい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の児童吹奏楽団と交流を図ったり、他の放課後デイサービスと合同運動会をするなどの機会を設けている。	これからも積極的に、交流できる機会を作っていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		必要に応じて参加していきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や連絡帳を通じて保護者と状況や課題・成果を共有している。	今後も対面や連絡帳、電話、メール等を活用しながら積極的に共通理解を深めていきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	ペアレントトレーニング等の主催はしていないが、外部研修の情報提供や日々の助言は行っている。	今後も日々の助言や情報提供を行いながら、必要に応じて研修実施を検討したい。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に詳しくお伝えするほか、必要に応じてその都度説明している。	今後も、利用者目線に立った、わかりやすく細やかな説明を心がけたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		定期的な面談時はもちろんのこと、日々の会話や情報共有の中で、子ども・保護者の思いをくみ取れるよう努力している。	今後も、子どもの最善の利益を念頭に置き、本人・保護者の気持ちをくみ取りながら、寄り添った支援を心がけたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		放課後等デイサービス計画に基づいて支援を行う事を説明し、同意を得ている。	今後も保護者の意向を丁寧に聞き取りながら、信頼を得て支援を行っていききたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		連絡帳を基本とし、電話やメール等でも悩みに対応している。また必要に応じて家庭や事業所で直接面談し相談支援を行っている。	今後も保護者の気持ちに寄り添いながら、適切な助言や支援を心がける。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		昨年度開催したが参加者がほとんどおらず、必要性を感じていない様子が見られたため、本年度は開催していない。	今後はニーズを確認しながら、開催を検討したい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応の体制や窓口については契約時に詳しく説明している。今年度も苦情はないが、申し出があった際は真摯に受け止め解決につなげていきたい。	今後苦情があった際は真摯に受け止め、当該保護者との関係を深める機会ととらえ、迅速に対応したい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		活動予定や準備物のお知らせ、子ども達の活動時の写真等を、個人情報に配慮しながら毎月紙媒体で発行している。	HPやSNSに対する準備を進めている現状であり、今後積極的に活用していきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の使用については契約時に詳細に確認している。個人が特定される用紙はシュレッダーにかけるなどしている。	今後も職員間で個人情報の取り扱いについて注意喚起を行いながら、慎重に取り扱っていく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		意思疎通に課題があった場合、どの部分がどのように阻害されているのか分析したうえで、必要に応じて個別に対応している。	今後も円滑な意思疎通のために工夫しながらコミュニケーションを行いたい。
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		児童ジャズバンドと交流を行い、地域の人も招待している。また昆虫採集や畑の収穫体験等でも交流を行っている。	今後も地域の方たちとの交流を積極的に計画していきたい。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを策定し、訓練等を実施している。また日々の支援の中で防犯の心得、飲食時の事故防止、感染症に備えた取組等を行っている。	今後も様々な状況を想定した訓練を計画的に進めて行くとともに、家族への周知の取り組みを強化する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、非常災害の発生に備えて定期的に訓練を行っている。 子どもが参加する訓練では、絵本、紙芝居、映像教材等を利用するなどしたり、事業所外で遭遇した場合を想定するなど工夫している。	今後も様々な状況を想定しながら、計画的に進めていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時や面談時に加えて、送迎等の機会を利用して状況確認を行っている。また保護者だけでなく子どもとの普段の会話等でも状況を確認している。	当事業所以外で新しい症状が現れた際にご連絡いただけない場合があったため、今後は以前と変わったことがあった際には確実に連絡をもらえるよう、周知徹底を行いたい。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在該当児なし。	現在該当児はいないが、今後備えてマニュアルを策定し、研修を実施して職員の学びを深めている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練を行っているのに加え、日々の支援の中で防犯の心得、飲食時の事故防止、感染症に備えた取組等を行っている。	今後も様々な状況を想定しながら、計画的に進めていきたい。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時等で確認周知しているのに加え、緊急時にすぐに連絡を取れるように定期的に確認している。	今後も様々な取り組みを行うとともに、家族への周知を強化したい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を準備し、些細なことでも記録して共通理解を行っている。事案があった時には毎月の職員会議で周知し改善策を検討、以後の安全面への取り組みに繋げている。	今後も職員間で情報共有・研修を行い、大きな事故にならないよう未然に防ぐ努力を続けていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に虐待防止・身体拘束適正化の委員会の開催や研修を行い、客観的に職員自身の行動を振り返り、今後の行動規範の指針にしている。	今後も未然に防げるよう、職員が自分を律しながら支援を行い、アンテナを立てて小さなことにも注意を払いながら虐待を発見した際には迅速に関係機関とも連携していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在該当児はいないが、策定している身体拘束に関する指針を基に、子供や保護者に事前に説明し了解を得て個別に対応する用意がある。	今後必要時に迅速に対応できるように、事前に準備しておく必要がある。